

要望事項

国道8号線福久南（交）～国道351号線百坂北（交）間の道路改修工事について
（山側環状道路と国道8号線を結ぶアクセス道路の交通量増加に伴う諸問題の改善）

1. 概要

山側環状道路が供用開始されて以降、国道8号線とアクセスする市道（福久南・百坂線）の車両通行量が飛躍的に増加した。

これにより、沿道住民は車両通行に起因する家屋の振動のため、生命と財産が危険にさらされた生活を余儀なくされている。

2. 道路改良の歴史

本路線は、幅員3～4mの未舗装道路であったが、昭和30年代後半から40年前半にかけて宅地開発・金市工業団地開発が進むにつれ、交通量が増加してぬかるみの悪路となったため、荒屋団地町会単独で砂利敷き労務提供等を実施してきたが、昭和42年に百坂・金市団地・荒屋団地の各町会が協同して福久道路舗装工事促進期成同盟会を立ち上げ、市と協議を重ねて工事費の半額を地元負担するなどして、現在の8m道路が完成した。

国道8号線バイパスが供用開始されて以降、バイパスとのアクセス道路として地元以外の車両交通が増加した。

3. 道路構造の問題点

本路線は、道路改良の歴史からみて明らかであるとおりに、道路構造令に基づく規格道路に適合するものではない。

ところが、国道バイパス開通により主要幹線道路に位置づけられ、さらに山側環状道路開通により大型車両の通行が激増した。

本道路周辺の地質は、河北潟沖積層からなり、その地耐力は甚だ小さい。

このため、応急的な舗装をどれだけ繰り返しても、交通量に耐え切れず1、2年で損傷し沿道家屋に振動被害を及ぼすこととなる。

4. 要望事項

市は予算の範囲内で毎年損傷した舗装を改修しているが、道路構造が交通量に対応していないため1年程度で損傷し、沿道住宅では昼夜振動に苦しめられ、睡眠不足で睡眠薬を服用したため肝機能障害を引き起こしたり、屋根瓦が落下する被害等が発生している。

よって、本路線全線にわたり設計CBRが確保できる道路規格構造に改修されたい。